

工具2種を小型軽量化

大竹製作所 (坂戸市)

金型..電気通信ケーブル敷設用工具類の開発

電気通信業界に用いられる光ファイバーケーブル類の保守管理や、新規敷設

の現場で使用する工具2種類を開発した。

写真上は「光ケーブル皮剥き用工具」。



光ファイバーケーブルは通常、コアと呼ばれる芯、クラッドと呼ばれる繊維状の金属とそれらを覆う被覆の三重構造になっている。このうち被覆の周囲に切れ目を付け、被覆のみを効率的に剥ぐため

の工具を開発した。地下の狭小な現場などで作業を行う作業者の負担を軽減するために小型・軽量化を図っている。

二つ目は「通線用工具」(写真下)。マンション等のケーブル類は硬質耐火材中に敷設されており、この中に新たなケーブルを通す

場合に使用する工具である。あらかじめ工具を耐火部に押し込んだ後、先端に

ケーブルを取り付け、元に引き込むことにより通す仕組み。強いコシとシナリをもたせるために、ステンレスの鋼線3本を旋盤でより、製作した。また、表面の滑りを良くするために全体にテフロンメッキを施している。

「通線用工具」については、既に商品化され市販されている。

【有限会社大竹製作所】

本社・工場は坂戸市千代田5-13-16。中川周三代表取締役。1965年に坂戸市八幡で創業。88年に現在地に移転した。創業以来、試作品・金型・治具類の製作、各種機械加工を手がけており、小ロット多品種生産にも対応している。